

First Access Booklet

Hitachi Virtual Storage Platform One Block 23

Hitachi Virtual Storage Platform One Block 26

Hitachi Virtual Storage Platform One Block 28

このブックレットでは、ストレージシステムを使用するために必要な最小限の設定について説明します。

はじめに

作業時間

このブックレットに記載された作業の完了までの時間の目安はおよそ 13 分です。

作業が中断しないように十分な作業時間を確保して開始してください。

作業準備

設定を行うための PC を準備してください。

管理 PC の要件については、VSP One Block Administrator ユーザガイドを参照してください。

困ったときには

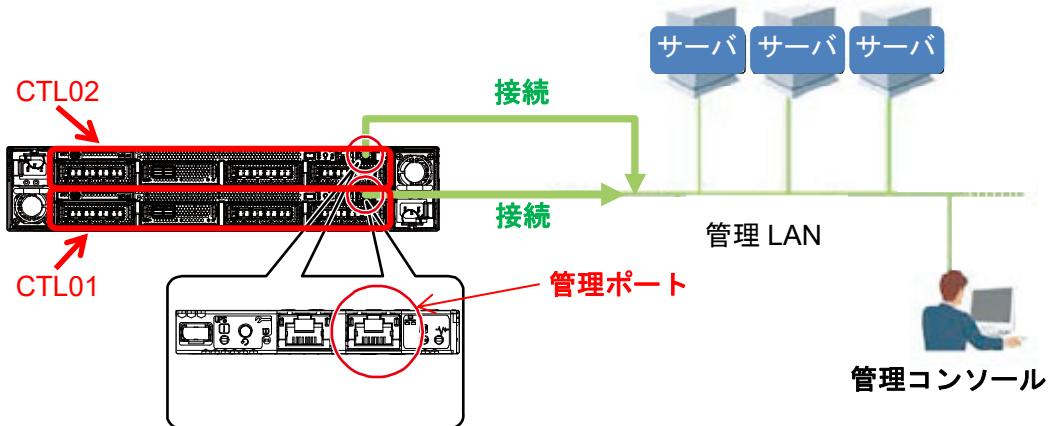
本資料の詳細情報はシステム管理者ガイドの記載を参照してください。

掲載されている画面図について

このブックレットに掲載されている画面は、予告なく変更になる場合があります。

1. ストレージを管理 LAN に接続

(1) 管理コンソール、CTL01 の管理ポート、および CTL02 の管理ポートを管理 LAN で接続してください。



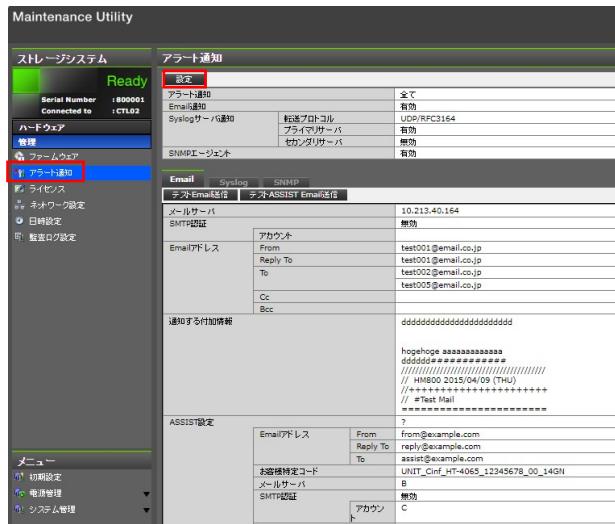
(2) maintenance utility にアクセスしてください。

- (1-1) 管理コンソールのブラウザを起動します。
- (1-2) ブラウザのアドレスバーに管理ポート IP アドレスを入力します。
(例) <https://<CTL の管理 LAN の IP アドレス>/MaintenanceUtility/>
- (1-3) 以下のユーザ名とパスワードを入力して、[ログイン] ボタンをクリックします。
ユーザ名: maintenance
パスワード: raid-maintenance
- (1-4) メニューから [システム管理] — [パスワードの変更] を選択します。
- (1-5) パスワードをデフォルトの値から変更します。
- (1-6) [完了] をクリックします。

2. アラート通知の設定

※この設定はスキップして後から行うことができます。

(1) アラート通知ウィンドウで [設定] ボタンをクリックします。



(2) [Email] タブをクリックします。

(3) Email 通知の各設定項目を入力してください。

(4) 各設定項目を確認して、[適用] ボタンをクリックします。

(5) アラート通知ウィンドウの Email タブで [テスト Email を送信] をクリックします。

設定した送信先に (Mail title : (Storage System Name) Report) のメールが届くことを確認します。



〈入力項目〉

項目名	入力
Email 通知 有効 / 無効	オプション
メールアドレス (To)	
メールアドレス (From)	
メールアドレス (Reply-To)	
通知する付加情報	
メールサーバー設定	
Identifier / IPv4 / IPv6	
SMTP 認証 有効 / 無効	
SMTP 認証 アカウント	
SMTP 認証 パスワード	

「オプション」となっている項目は入力不要です。
初期設定完了後に設定し直すことも可能です。

3. VSP One Block Administrator にアクセス

(1) ストレージの VSP One Block Administrator にアクセスします。

(1-1) 管理コンソールのブラウザを起動します。

(1-2) ブラウザのアドレスバーに管理ポートの IP アドレスを入力します。

(1-3) ユーザ名とパスワードを入力して、[ログイン] をクリックします。

 ユーザ名: maintenance

 パスワード: (手順 1.(2)で設定したパスワードの値)



4. プールの作成

(1) ナビゲーションツリーから [ストレージ] – [プール] を選択します。

(2) [プール作成] をクリックします。

(3) [プール名] を入力して、[実行] をクリックします。

項目名		説明
プール名		作成するプールの名前を入力します

5. サーバの登録

(1) ナビゲーションツリーから [ストレージ] – [サーバ] を選択します。

(2) [サーバ登録] をクリックします。

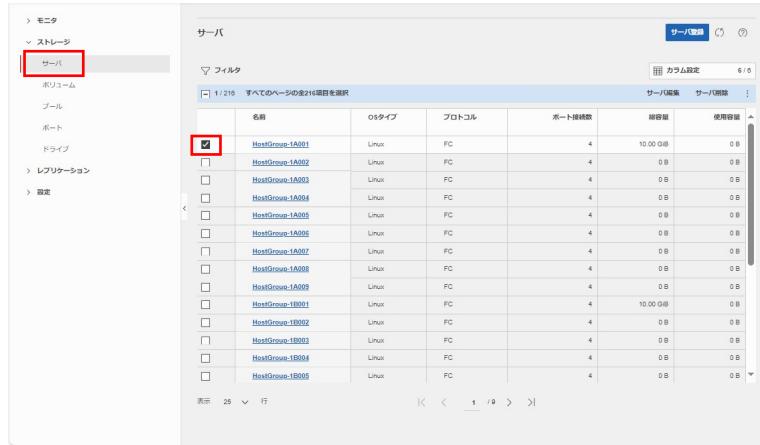
(3) 必要な項目を入力して、[実行] ボタンをクリックしてサーバを登録します。

〈入力項目〉

項目名	説明
サーバ名	登録するサーバ名を入力します
OS タイプ	登録するサーバの OS タイプを選択します
プロトコル	サーバとの通信に使用するプロトコルを選択します
WWNs / iSCSI イニシエータ名	登録するサーバの WWN または iSCSI のイニシエータ名を入力します

6. サーバに接続するポートの設定

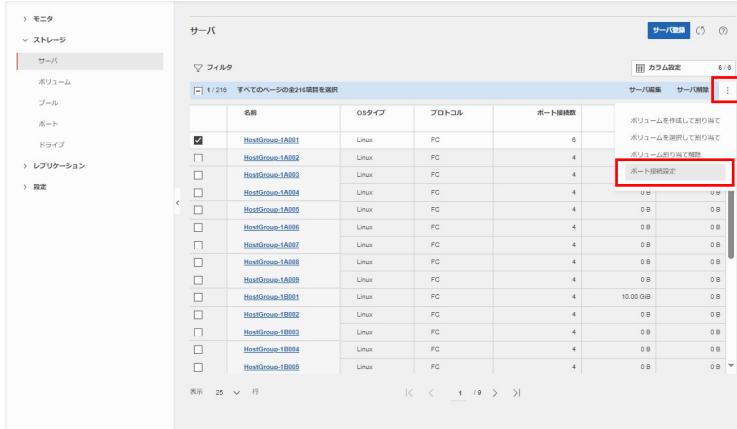
(1) ナビゲーションツリーから [ストレージ] – [サーバ] を選択し、サーバー覧から対象のサーバのチェックボックスにチェックを入れます。



サーバ

名前	OSタイプ	プロトコル	ポート接続数	総容量	使用容量
HostGroup-1A001	Linux	FC	4	10.00 GB	0 B
HostGroup-1A002	Linux	FC	4	0 B	0 B
HostGroup-1A003	Linux	FC	4	0 B	0 B
HostGroup-1A004	Linux	FC	4	0 B	0 B
HostGroup-1A005	Linux	FC	4	0 B	0 B
HostGroup-1A006	Linux	FC	4	0 B	0 B
HostGroup-1A007	Linux	FC	4	0 B	0 B
HostGroup-1A008	Linux	FC	4	0 B	0 B
HostGroup-1A009	Linux	FC	4	0 B	0 B
HostGroup-1B001	Linux	FC	4	10.00 GB	0 B
HostGroup-1B002	Linux	FC	4	0 B	0 B
HostGroup-1B003	Linux	FC	4	0 B	0 B
HostGroup-1B004	Linux	FC	4	0 B	0 B
HostGroup-1B005	Linux	FC	4	0 B	0 B

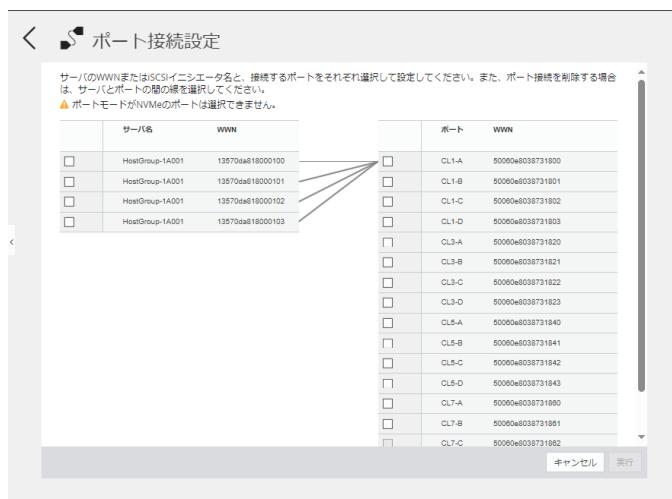
(2) アクションバーの三点リーダーから [ポート接続設定] をクリックします。



サーバ

名前	OSタイプ	プロトコル	ポート接続数	ポート接続設定
HostGroup-1A001	Linux	FC	4	<input type="button" value="ポート接続設定"/>
HostGroup-1A002	Linux	FC	4	
HostGroup-1A003	Linux	FC	4	
HostGroup-1A004	Linux	FC	4	
HostGroup-1A005	Linux	FC	4	
HostGroup-1A006	Linux	FC	4	
HostGroup-1A007	Linux	FC	4	
HostGroup-1A008	Linux	FC	4	
HostGroup-1A009	Linux	FC	4	
HostGroup-1B001	Linux	FC	4	<input type="button" value="ポート接続設定"/>
HostGroup-1B002	Linux	FC	4	
HostGroup-1B003	Linux	FC	4	
HostGroup-1B004	Linux	FC	4	
HostGroup-1B005	Linux	FC	4	

(3) サーバの WWN または iSCSI イニシエータ名と、ストレージシステムのポート ID をクリックしてパスを設定します。



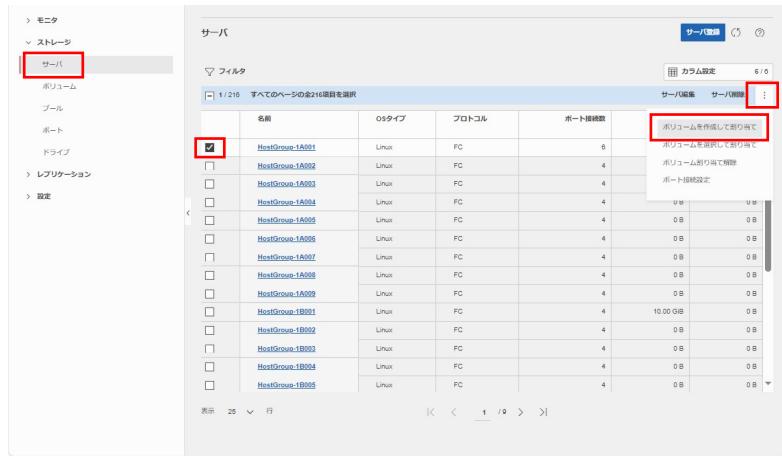
ポート接続設定

サーバ名	WWN	ポート	WWN
HostGroup-1A001	13570da818000100	CL1-A	50000e8038731800
HostGroup-1A001	13570da818000101	CL1-B	50000e8038731801
HostGroup-1A001	13570da818000102	CL1-C	50000e8038731802
HostGroup-1A001	13570da818000103	CL1-D	50000e8038731803
		CL3-A	50000e8038731820
		CL3-B	50000e8038731821
		CL3-C	50000e8038731822
		CL3-D	50000e8038731823
		CL5-A	50000e8038731840
		CL5-B	50000e8038731841
		CL5-C	50000e8038731842
		CL5-D	50000e8038731843
		CL7-A	50000e8038731860
		CL7-B	50000e8038731861
		CL7-C	50000e8038731862

(4) [実行] をクリックします。

7. ボリュームの作成とサーバへの割り当て

- (1) ナビゲーションツリーから [ストレージ] – [サーバ] を選択し、サーバー覧から対象のサーバのチェックボックスにチェックを入れます。
- (2) アクションバーの三点リーダーから [ボリュームを作成して割り当てる] をクリックします。



- (3) 必要な項目を入力してボリュームを作成し、[実行] をクリックしてサーバに割り当てます。



〈入力項目〉

項目名	説明
プール	ボリュームを切り出すプールを選択します
容量	ボリュームの容量を入力します
ボリューム数	作成するボリューム数を入力します
ボリューム名	作成するボリュームの名前を入力します
開始番号	ボリューム名の後ろに付加する開始番号を入力します
桁数	ボリューム名の後ろに付加する番号の桁数を入力します

- (4) [実行] をクリックします。

選択されたサーバと選択されたボリュームがマップされます。

設定の完了

これで設定作業は終了です。

詳細については『VSP One Block Administrator ユーザガイド』を参照してください。